

2022

4-5月

はしかけニューズレター

2022年度 第1号 通巻164号

2022年(令和4年)4月1日発行

編集・発行: 滋賀県立琵琶湖博物館 交流担当 (はしかけ担当職員: 中川・松岡)

住所: 〒525-0001 滋賀県草津市下物町1091 電話: 077-568-4811 ファックス: 077-568-4850

電子メール: hashi-adm@biwahaku.jp 琵琶湖博物館ホームページ: <https://www.biwahaku.jp>

～ 目次 ～

1. 事務局からのお知らせ

2. はしかけグループの活動報告と活動予定

- (1) うおの会 (2) 近江 巡礼の歴史勉強会 (3) 淡海スケッチの会
- (4) 近江はたおり探検隊 (5) 大津の岩石調査隊 (6) 温故写新
- (7) 暮らしをつづる会 (8) 古琵琶湖発掘調査隊 (9) ザ! ディスカバはしかけ
- (10) 里山の会 (11) 植物観察の会 (12) たんさいぼうの会 (13) 田んぼの生きもの調査グループ
- (14) タンポポ調査はしかけ (15) ちっちゃなこどもの自然あそび(ちこあそ) (16) 琵琶湖の小さな生き物を観察する会
- (17) びわたん (18) ほねほねくらぶ (19) 緑のくすり箱 (20) 虫架け (21) 森人 (22) 琵琶湖梁山泊
- (23) サロン de 湖流 (24) 水と暮らし研究会 (25) 海浜植物守りたい

3. 生活実験工房からのお知らせ

4. その他の事項

会員数 … 393人
 グループ数 25グループ
 (2022年 3月31日現在)

1. 事務局からのお知らせ

やわらかく暖かい日差しが心地よく感じられる春の季節になりました。皆様にはいよいよご活躍のこととお喜び申し上げます。

さて、3月には、はしかけ登録講座をオンラインにて行いました。今回は通常とオンラインを併せて行う予定でしたが、新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴い、オンラインのみでの実施となりました。今回の講座では新たに16名の方の入会希望がありました。

ただ、オンラインでの開催にはメリットとデメリットがあり、そのデメリットを補うべく本年度のはしかけ登録講座は、通常とオンラインを併せながら実施していくことを検討しています。

(1) 更新手続きについて

更新受付票を会員の皆様宛に2月末にお送りさせて頂きました。年度末に更新手続きをお忘れて、2022年度も継続してはしかけ活動をされる方は、更新手続きが必要です。更新受付票の返送とボランティア活動保険への加入をお願い致します。ボランティア活動保険の加入については、4月以降に加入される場合は、博物館での加入手続き代行は行っておりませんので、個人での加入手続きをお願いします。お近く(市・町・県)の社会福祉協議会にて、「ボランティア保険」の加入手続きを行ってください。その際、「主な活動内容」欄には「琵琶湖博物館はしかけ 観察会・課外活動」、「主な活動場所」欄には「琵琶湖博物館」とご記入ください(はしかけ以外の活動団体ですでにボランティア保険に加入されている方は新たな加入手続きは不要です)。

また、4月1日以降の更新手続きについては、手続き希望者が一定数まとまった段階で行いますので、更新受付票を送付頂いてから名札等をお送りするまで、1か月程度の期間が空くことがありますので、ご了承ください。

(2) 2022年度第1回はしかけ登録講座

はしかけ登録講座の第1回を2022年5月15日(日)に開催予定です。

場所: 琵琶湖博物館 ホール 受付: 13:00～ 開始: 13:30～

各グループの代表の方には、可能な範囲で、活動紹介をお願いする予定です(約2分間の活動紹介)。

(中川 信次)

2. はしかけグループの活動報告と活動予定



(1) うおの会

【活動報告日の活動会員数(のべ) 13名】

グループ代表アドレス: hashi-uonokai@biwahaku.jp

グループ担当職員: 田畑 諒一

【活動報告】

■1月、2月の勉強会は中止となりました。

【活動予定】

3月27日に総会を開催日し、次年度活動予定などを決定します。
詳細はメールにてお知らせします。



12月の和邇川調査では、
ヨシノボリ類が多数いました



(2) 近江 巡礼の歴史勉強会

【活動報告日の活動会員数(のべ) 8名】

グループ代表アドレス: hashi-junrei-rekishi@biwahaku.jp

グループ担当職員: 橋本 道範

【活動報告】

■ 令和4年2月15日(火) 場所: 甲賀市水口町 参加者: 2名

甲賀市の今郷棚田が農林水産省の「つなぐ棚田遺産」に選定された。

今郷棚田(甲賀市水口町今郷の勾配1/20以上の急傾斜地4haと勾配1/50以上の緩傾斜地42ha)が令和3年2月に甲賀市初となる「指定棚田地域」として国指定を受け、続いて4月に「指定棚田地域振興活動計画」が認定されました。そして、この活動を推進する今郷棚田集落協定(構成員37名)は、令和3年11月に新棚田百選として募集があった農林水産省の「つなぐ棚田遺産」に甲賀市長と滋賀県知事の推薦を受けて申請した。令和4年2月に全国で271地域が選ばれ、滋賀県では今郷棚田とともに高島市の畑の棚田や大津市の上仰木棚田などの7地域が選定された。

つなぐ棚田遺産～ふるさとの誇りを未来へ～は、棚田地域の振興に関する取り組みを積極的に評価し、棚田地域の活性化や多面的機能に対する理解と協力を得ることを目的としている。今郷棚田は「今郷棚田の自然を学び豊かな自然を守ろう!」をテーマに、取り組む内容として、県内の博物館等との連携による生態系保全活動で、自然の素晴らしさを学び大切にすることを育むとともに、集落ぐるみによる棚田保全による仕組みを構築するとした。

農業にとって水は最も重要なものの一つであり、その状況で収穫が左右される。古来から水神は田の神と結びついて五穀豊穡の神として祀られてきた。水源地には水分神が祀られ、山の神とも結びついたとされている。

この度の「つなぐ棚田遺産」の認定(3月25日予定)を契機に農耕民族の祈りとして、水分信仰にかかわる、田の神、山の神、「みこもり」、子授け、安産の神についても勉強を進めたい。



「つなぐ棚田遺産」今郷棚田の田植え



有名な今郷貯水池の円形分水

■ 令和4年3月2日(水) 場所: 甲賀市水口町 参加者: 2名

NHKBS プレミアム『吉田類のにつぼん百低山』放送

修験の聖地飯道山、飯道神社、山伏の修行場、織田信長が国見をしたと伝わる岩場、廃飯道寺の石垣のある坊跡、催事に使われたと思われる石組みの残るため池なども紹介された。飯道山行者講に所属し活動している当会メンバーが山伏姿で出演、飯道山を隈なく案内し解説した。放送後の反響も大変大きく、飯道山の歴史と自然を世界の多くの人々に知ってもらおうきっかけになった。



山伏の修行場「平等岩」の撮影



木食応其の入定窟の解説

■ 令和4年3月6日(日) 場所: 甲賀市水口町 参加者: 4名

琵琶湖博物館情報誌「びわはく」Vol.6 に寄稿

「近江の祈りの聖地を巡る」と題して、フィールドからの新発見のコーナーで「近江 巡礼の歴史勉強会」の活動内容を紹介した。平成27年12月に発見した甲賀准四国設置由来と納経帳をきっかけに、活動を進めていく中で発見してきたことを記述した。

【活動予定】

- ・「甲賀准四国八十八カ所」に関連した調査活動として、一カ寺ごとの二次調査を行い、データ集積を行う。
- ・各寺院への訪問調査を進める。

(福野憲二)

*この活動に興味のある方は、上記メールアドレスにてご連絡ください。



(3) 淡海スケッチの会

【活動報告日の活動会員数(のべ) 7名】

グループ代表アドレス: hashi-sketch@biwahaku.jp

グループ担当職員: 榎永 一宏

【活動報告】

■ 2022年 2月 20日(日) 参加者3名
博物館内のオープンラボでスケッチ。

■ 2022年 3月 20日(日) 参加者4名
オープンラボにてスケッチ。

3月20日は午後から屋外でスケッチの予定でしたが、寒さが戻り、午後は散策に切り替える人や、屋内でスケッチを続けるメンバーも。春先は寒暖の差が激しく、予定が立てにくいので柔軟に活動を行っています。

※写真は、3月はじめに下見に出向いた水が浜のフキノトウです。

【活動予定】



4月17日(日) 崇福寺跡(大津市)でのスケッチ

活動時間10時30分～15時

スケッチの道具、敷物、飲物、お弁当持参のこと。集合場所につきましては、後日連絡します。
※雨天時は博物館内でのスケッチに切り替えます。

5月15日(日) 仰木の棚田付近(大津市)でのスケッチ

活動時間10時30分～15時

スケッチの道具、敷物、飲物、お弁当持参のこと。集合場所につきましては、後日連絡します。
※雨天時は博物館内でのスケッチに切り替えます。



(4) 近江はたおり探検隊

【活動報告日の活動会員数(のべ) 22名】

グループ代表アドレス: hashi-oumihataori@biwahaku.jp

グループ担当職員: 橋本道範

【活動報告】

■1月26日(水) 参加者:6名

今回はコンニャク作り。工房で育てたイモをもらって、3kg分作成しました。

■2月9日(水) 参加者:3名

地機で織っていた布ができあがったので、機から下して分割しました。タテ糸を手紡ぎの糸にしたため切れやすく、切れた糸をつないだ部分をきれいにするのに時間がかかりました。

■2月26日(土) 参加者:8名

今日はアンデス織を習いました。アンデス織は毛糸と割箸2本を使って、指で糸をくぐらせて、複雑な模様の紐が織れます。簡単で面白いので、しばらく練習したいと思います。

■3月9日(水) 参加者:5名

午前中はアンデス織の続き。午後は次のはたおり用のオサ通しをしました。今回は480羽のオサを使ったので、時間がかかって大変でした。次回から経巻(たてまき)作業をします。

【活動予定】

■織姫の会

3月26日(土)、4月6日(水)、23日(土)、5月14日(土)、25日(水)、
6月8日(水)、25日(土)、7月13日(水)、30日(土)

(辻川智代)



2月9日はたおり完成



2月26日アンデス織



3月9日オサ通し



(5) 大津の岩石調査隊

【活動報告日の活動会員数(のべ) 5名】

グループ代表アドレス: hashi-ganseki@biwahaku.jp

グループ担当職員: 里口 保文

【活動報告】

■2022年2月の活動

○新年度活動計画についての会議および烏丸半島の岩石調べ(参加者5名)

日時:2022年2月26日(土) 13:30~16:00

場所:琵琶湖博物館 実習室1

1. 新年度活動計画についての会議

新型コロナウイルス対策でのはしかけの基準や、不審メールが届いた時の対応や、はしかけボランティア保険のことなどを説明しました。新年度の活動として野外調査と勉強会と薄片観察会は今まで同様行い、今後新たに烏丸半島の岩石調べをしていくことになりました。メンバーの皆さんになるべく行事を多く担当していただくことによって、より自主的により深く勉強していくことを目標に年間計画を立てました。

2. 烏丸半島の岩石調べ

時間がなく、学習室や玄関ロビーの廊下から硝子越しに見える岩石のみの調査になりました。泥岩や砂岩質の岩石が多かったです。外見で岩石を観察して何の種類かを判断するのは難しいと感じました。これからも先生方に教えてもらいながら勉強をすすめていきたいです。

■2022年3月の活動(予定)

○烏丸半島の岩石調べ

日時:2022年3月27日(日) 13:00~16:00

場所:琵琶湖博物館 実習室1

【今後の活動予定】(各月の日程は未定)

4月:金勝竜王山か野洲クリーンセンター近くの露頭を野外調査

5月:土倉鉱山を野外調査

6月:太郎坊宮を野外調査

7月:薄片観察 屋内勉強会

8月:薄片観察 屋内勉強会

9月:鹿跳溪谷を野外調査

11月:学生さんと一緒に宇治方面を野外調査

12月:屋内勉強会

1月:屋内勉強会

2月:会議



(6) 温故写新

【活動報告日の活動会員数(のべ) 0名】

グループ代表アドレス: hashi-onkosyasin@biwahaku.jp

グループ担当職員: 金尾 滋史

【活動報告】

■2月13日(日) おでかけ撮影会 in 石部 (中止)

新型コロナウイルス感染症拡大の影響により中止となりました。

■3月13日(日) 総会 博物館交流室2 (中止)

未だ新型コロナウイルス感染症の影響が収まらず、室内での活動であることからやむを得ず、中止となりました。

【活動予定】

まだ先があまり見えない状況ではありますが、4月以降の活動内容については、また改めてメール等で皆さまにお知らせします。



(7) 暮らしをつづる会

【活動報告日の活動会員数(のべ) 1名】

グループ代表アドレス: hashi-kurashi@biwahaku.jp

グループ担当職員: 大久保美香

【活動報告】 活動はありませんでした。

【活動予定】 未定です。



(8) 古琵琶湖発掘調査隊

【活動報告日の活動会員数(のべ) 5名】

グループ代表アドレス: hashi-hakkutsu@biwahaku.jp

グループ担当職員: 山川 千代美

【活動報告】

■粒度表の作成

日時: 1月30日(日) 13:00~16:30 場所: 琵琶湖博物館 実習室2 参加者: 5名

活動内容: 地層の観察をする際に必要となる『粒度表』の作成を行いました。

作業に入る前に、学芸員の里口保文さんから、土の粒径の区分や、土をふるい分けるための精密な篩と機械の扱い方などについて説明をしていただきました。その後、6種類の粒度にふるい分けるため、目開きの違う篩を、下に向かって目開きが小さくなるように重ね、一番上の篩の中に、土をごく少量入れて機械の上に乗せて機械に固定し、振動をかける作業を行いました。

ふるい分ける前の土は、様々な粒径の土が混じり、一見ただけでは、6種類の粒度の土が含まれているかどうか判断できないため、各種類の粒度の土を得ることができるか心配でした。下準備として、前回の活動で、あらかじめ土の粒の大きいものと小さいものにおおまかに土を分けておいたので、それらの土を微調整しながらブレンドし、一度のふるい分け作業の中で、各粒度の土がまんべんなく取れるよう、工夫しました。結果は、振動をかけた後の篩を開けてみると、量のばらつきはあったものの、6種類の粒度の土がふるい分けられていました。



【作業の前に説明を聞きました】



【篩を重ね、機械に固定して振動をかけます】

メンバーからのアイデアで、粒度表の台紙には、100円均一ショップで購入できる使い捨てタイプのパレットを使用しました。機械で土のふるい分けをしている間、事前に接着試験を行ったメンバーの報告をもとに、パレットの強度の確認と補強の方法、土を接着するために最適な接着剤の選定を皆で検討しました。また、粒度表作成用の土採集と合わせて行った野洲川(湖南市)での地層の観察の報告を、昨年12月の活動に引き続き、観察地点のまとめの図について情報共有しました。ふるい終わった土は、各粒度ごとに紙の上にあけ、ジッパー袋に入れて保管しました。



【土を慎重にジッパー袋に保管】



【手分けして作業しました】

その後、ふるい分けた土を使って粒度表の試作品を作成しました。また、粒度表の台紙に貼る「粒度表示」について、メンバーの一人が作成したいくつかの提案デザインを見ながら検討しました。

活動終了後、試作品は里口さんにも見ていただき、改善点についてアドバイスをいただきました。



〔試作品を作成中〕



〔試作品が完成！〕



〔粒度の表示デザインも検討〕

粒度表の作成を通じて、メンバー達から、自分達で作った粒度表を使って、ぜひ地層の観察をしてみたいという声が聞かれました。里口さんにいただいたアドバイスも参考に、より古琵琶湖層群の地層の観察に適した粒度表の作成を目指し、皆で、もう少し工夫をしていきたいと思えます。

【活動予定】

未定(新型コロナウイルスの感染状況が収まり次第、随時計画を立てていく予定です。



(9) ザ！ディスカバはしかけ

【活動報告日の活動会員数(のべ) - 名】

グループ代表アドレス: hashi-discov@biwahaku.jp

グループ担当職員: 田畑 諒一

【活動報告】

■3月中旬 森のたからもの

残念ながら、オミクロン株によるコロナ禍の悪化のため、本イベントも中止となりました。

【活動予定】

■4月中旬以降 森のたからもの

(土日祝日で開催の場合、ディスカバリールームは閉室です)

昨今の情勢次第で変更の可能性があります。

3月に中止になった森のたからものです。現在、イベントの再開が未定のため、5月以降の開催になる可能性もあります。

残念ながら、オミクロン株によるコロナ禍の悪化のため、ディスカバリールームは3月18日現在、平日も閉室しています。そのような状況なので、新しいディスカバリーボックスを考案したり、展示室の大規模な修繕を行いました。再開したら、ぜひ見に来てください！

ディスカバリールームで「こんな楽しいことしたい！」などアイデア・提案があれば、お気軽に田畑・大槻まで声をかけてください。いつでもお待ちしております！

新しいメンバーも大募集中です。一緒に楽しい発見(ディスカバ)してみましよう！

また、ザ！ディスカバはしかけでは、定期的にイベントを開催しています。ぜひご参加ください。



(10) 里山の会

【活動報告日の活動会員数(のべ) 14名】

グループ代表アドレス: hashi-satoyama@biwahaku.jp

グループ担当職員: 美濃部諭子

■2月13日(日) 味噌づくり

中止

■2月20日(日) 蠟燭づくり

中止

■3月12日(土) 総会・キノコ菌打ち 参加者 14人

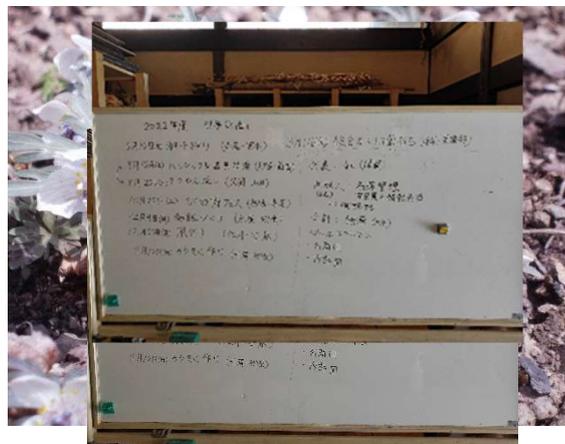
例年、総会のとときにキノコの菌打ちもしていますが、今年度はキノコの菌打ちは中止で総会だけを行いました。

総会では来年度にやりたいことを出して計画を立てました。今年度はコロナ禍によりほとんどの活動が中止になってしまいましたが、来年度はぜひいろいろな活動を実施していきたいと思えます。

【今後の活動予定】

4月16日(土) 里山体験教室 下見

4月24日(日) 里山体験教室 本番



(11) 植物観察の会

【活動報告日の活動会員数(のべ) 0名】

グループ代表アドレス: hashi-shoku-kan@biwahaku.jp

グループ担当職員: 芦谷 美奈子

新型コロナウイルスの感染状況の広がりに伴い各県で蔓延防止措置策がとられたため、活動を休止。

しかし、春が近づきフクジュソウ、セツブンソウ、ユキワリイチゲの咲く時期となってきたため、個人的にもワクワクが止まらず、毎年のように訪れている場所へ「ひとりお出かけ」をしています。ただ、今年は、降雪量が例年を上回ったこともあり、伊吹山の麓は3月初めでも、まだまだ雪に埋もれている状態です。

このセツブンソウも守ってくださる方々のおかげで、毎年見ることができます。守っていくことの難しさやかかる手間も感じながら、季節を告げる花々を楽しみたいです。

【活動報告】

2月 例年 お休み 参加者 0名

3月 6日(日) 活動休止 参加者 0名

【今後の活動】

■ 月に1回、第1日曜日の午後を予定しています。

■ 遠出の場合は、これに限らず、変則的になります。

基本的には、危険が無く雨でも歩ける所で、大雨や警報が出ない限り「行方」方向でいます。

■ 4月以降 未定

その他、新型コロナウイルスの広がり状況や雪によってもお休みにすることがあります

この活動に興味のある方は、メール(上記メールアドレス)にてご連絡ください(〇〇)/
当日、直接、実習室や現地へ来ていただいても結構です。



(12) たんさいぼうの会

【活動報告日の活動会員数(のべ) -名】

グループ代表アドレス: hashi-keisou@biwahaku.jp

グループ担当職員 大塚 泰介(影の会長)

【活動報告】

オミクロン変異株による新型コロナウイルス感染症の再拡大によって、年明けくらいから集まっていた活動ができていません。しかし一部の会員は個人で来館し、あるいは自宅の顕微鏡を用いて、少しずつ研究を進めています。特に会員の石井千津さんが、影の会長が2016年に採集してきた黒沢(クロゾオ)湿原(徳島県)の24サンプルに含まれる珪藻の写真撮影を僅か数ヶ月で済ませ、同定も半分近くまで終わらせたことは驚異的であり、特筆に値します。

【活動予定】

たんさいぼうの会第70回総会を、3月27日(日)19時から、オンラインで開催します。もっともこのニューズレターが発行される頃には終わっているので、ここで予告しても意味はないのですが。

オミクロン株流行で延期になった「珪藻基礎講座 はじめてのたんさいぼう」を、4月10日(日)にオンラインで開催します。時間は調整中です。今回は、インターネット上の研究資源を用いた珪藻同定入門で、会員の古川麻依さんと島津心暖さんが講師をつとめます。彼女らは高校時代にこの方法を開発し、自らの化石珪藻研究に活用していた、まさにパイオニアです。興味のある方は上記代表アドレスまでお問い合わせ下さい。

集まって活動ができるようになるまで、個人研究や面会によらない共同研究を進めていきます。「たんさいぼうの小さな旅」で採集した瀬田公園の珪藻について、同定まで完了していますので、早期の原稿完成を目指します。黒沢湿原(徳島県)の珪藻植生研究についても、早期に論文にまとめることを目指します。他にも個人研究として、古琵琶湖層群蒲生層の古環境の研究、古琵琶湖層群甲賀層の化石珪藻の研究、愛知県の鈹質土壌湿地群の珪藻植生研究、曾根沼・野田沼(彦根市)の珪藻植生研究、千種川(兵庫県)の珪藻植生研究などを進めていきます。

そして新型コロナの感染が収束したら、2年間待ち続けた、対面で集まっていた活動を再開します。福井県立年縞博物館の見学、面会でのワークショップ(珪藻の詰め込み教育を計画中)、そして採集旅行。今から楽しみです。



(13) たんぼの生きもの調査グループ

【活動報告日の活動会員数(のべ) 8名】

グループ代表アドレス: hashi-tambo@biwahaku.jp

グループ担当職員: 鈴木 隆仁

この原稿を書いている今は春休み。そろそろサクラの便りも聞かれそうですが、まだまだ朝晩は冷え込みます。しかし、このニューズレターが発行される頃には桜も終わり、たんぼの土おこしが始まっていることでしょう。田植えまでもう2か月ありません。エビたちは土の下であくびでもしているでしょうか。

2021年度の活動報告まとめと2022年度の活動計画は、琵琶湖博物館の年報をご覧ください。今年度最後の総会の概要は以下の通りです。

・3月21日 10:00~12:00 琵琶湖博物館実習室2 出席者 8名

出席者の簡単な自己紹介の後、山川代表からいくつかの連絡事項が述べられた。その後2022年度の活動について山川代表から案が出され、検討の結果以下の詳細が決定された。

- 1) 広域調査は長浜および愛知川流域を目標
5月下旬(21, 22か28, 29のいずれか)の予定だが、天候や稲の生育状況を見て最終決定する。
調査の準備は5月7日か8日を予定。
- 2) カブトエビ類の調査
石山・赤尾町周辺と月輪・大江の2か所で、6月4日か5日を予定。
- 3) カブトエビの飼育
琵琶湖博物館実験工房に場所を借りて、大型容器で飼育実験を行い、卵の確保を目指す。

今年度のカブトエビ飼育実験は2名が取り組みましたが、孵化1個体のみと失敗。今度の春に期待をかけます。焦ってもうまくいきそうもないので、まずは地道に親から飼育しようということになりました。うまいければよいのですが。

(石井千津)



(14) タンポポ調査はしかけ

【活動報告日の活動会員数(のべ) 0 名】

グループ代表アドレス: hashi-tanpopo@biwahaku.jp

グループ担当職員: 芦谷 美奈子

<「タンポポ調査・西日本2020」もうすぐ報告書ができます>

「タンポポ調査はしかけ」は、「タンポポ調査・西日本2015」というタンポポの参加型広域調査に協力しながらタンポポについて学ぶことを目的にしているグループです。5年に1度2年にわたって実施される広域調査ですが、新型コロナウイルス対策によって、参加している府県の多くで積極的な参加型の活動が制限されることとなりました。そのため、事務局では調査を2021年まで延長して実施することを決め、2021年も3月から5月31日まで調査を実施しました。2022年に入って、ようやく3年分のデータをまとめて提出しており、西日本全体の報告書が近日中に発行されます。

【活動報告】

滋賀県では、3年間で約2,500の頭花サンプルを送っていただきました。琵琶湖博物館のフィールドレポーターの皆さんを始めとして大勢の方々に調査にご協力いただき、参加者の皆様に心より感謝いたします。本当にありがとうございました。

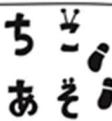
また、このはしかけグループは、広域調査に合わせて活動することを想定して発足しましたが、2020年調査については新型コロナ拡大防止のために観察会等も中止になり、琵琶湖博物館の施設の利用も長期間制限されていたため、ほとんど活動ができませんでした。そのことについては、関係者の皆様にお詫びいたします。

【活動予定】

現時点では、特に活動予定はありません。

次回(2025年)の広域調査に関しては、規模が大きく変わる可能性があるとのことで、4月以降に各府県の実行委員会(滋賀県では琵琶湖博物館)の担当者を集めて、今後の方針を探る話し合いが持たれるとのことです。その結果を受けて、こんごのグループの活動について検討いたします。

(文責: 芦谷)



(15) ちこあそ

【活動報告日の活動会員数(のべ) 4名】

グループ代表アドレス: hashi-chikoaso@biwahaku.jp

グループ担当職員: 大久保 実香

【活動報告】 ※今年度から、びわ博ホームページからのオンライン予約制となりました。

◆2月の活動 2/16(水)

残念ながら、新型コロナ拡大防止の観点から、中止としました。

◆3月の活動 3/16(水)

3月も残念。中止としましたが、はしかけメンバーで春の畑づくりをしました。畑を耕して、畝を立てて、ジャガイモ(男爵、メークイン)、サトイモ、ソラマメ、スナップエンドウ、ジャンボラッカセイの植え付けを行いました。

春どころか初夏を思わせるような温かさ。ポカポカ陽気で畑はとても気持ちよく、作業はドンドン進みました。工房担当の中川さんにご指導いただき、おいしい野菜になりますように、来年度はちこあそのみなで、食を楽しめますようにと願いながらの作業でした。



バンダナおじさんが耕運機で耕してくださいました。



ジャガイモの芽を確認しながら、包丁で切って、灰をまぶしてと植え付け前の準備作業。

みんなで植え付け。大きくなーれ。

【今後の活動予定】びわ博ホームページで2か月前から参加予約ができます。

活動月	実施日、時間	タイトル	内容
4月	4月20日(水) 10:00-14:00	ちこあそ4月	午前の部 10:00-12:00、午後の部 12:00-14:00 各回定員5組 予約制です。びわ博HPからお申し込みください。 毎月おおよそ第3水曜日に行っています。 コロナ禍のため実施についてはその都度判断します。
5月	5月18日(水) 10:00-14:00	ちこあそ5月	ループでの自然観察、森の探検、ガチャコンポンプの水遊びなど やさしい自然遊びを子どもや保護者の方とゆっくり、ボチボチ過ごします。

はしかけの新しいメンバーも飛び入りも大募集中です。一緒に子ども達と遊びましょう！



(16) 琵琶湖の小さな生き物を観察する会 【活動報告日の活動会員数(のべ) 0名】

グループ代表アドレス: hashi-bck@biwahaku.jp

グループ担当職員: 大塚 泰介

【活動報告】

■ 2月、3月は新型コロナウイルスの感染拡大を考慮し、観察会は行いませんでした。

【活動予定】

琵琶湖の小さな生き物を観察する会では月に1回、観察会を行っています。見学・参加希望の方はグループ代表アドレスまでお問い合わせください。



(17) びわたん 【活動報告日の活動会員数(のべ) 0名】

グループ代表アドレス: hashi-biwatan@biwahaku.jp

グループ担当職員: 安達克紀・由良嘉基

【活動報告】

- ◆ 2月12日(土)「船 de アート！」中止
- ◆ 3月12日(土)「お魚モビールを作ろう！」中止

2月、3月のわくわく探検隊については、新型コロナウイルス拡大防止のため中止となりました。

申し訳ありませんが、ご理解の程、よろしくお願い申し上げます。

来年度の開催を楽しみにしております。



(18) ほねほねくらぶ

【活動報告日の活動会員数(のべ) 15名】

グループ代表アドレス: hashi-hone-hone@biwahaku.jp

グループ担当職員: 松岡由子・中川信次

【活動報告】

- 1月22日(土) 参加者: 2名
シロハラの仮剥製の制作、シロハラの除肉を行いました。
- 2月5日(日) 参加者: 2名
シロハラの仮剥製の製作、鳥の骨のクリーニングを行いました。
- 2月20日(日) 参加者: 2名
シロハラの除肉、鳥の骨のクリーニングを行いました。
- 2月27日(土) 参加者: 3名
シロハラの除肉、カワラバト(ドバト)皮剥ぎ、鳥の骨のクリーニングを行いました。
- 3月6日(土) 参加者: 2名
カワラバト(ドバト)の除肉、鳥の骨のクリーニングを行いました。
- 3月20日(日) 参加者: 4名
カワラバト(ドバト)の除肉、キツネの組み立て、鳥の骨のクリーニングを行いました。
この日行っていた鳥の骨のクリーニングの中で、写真にありますこの輪っかに出会ったのですが、これは強膜輪(きょうまくりん)というもので、人間には無い組織です。
強膜輪は鳥や爬虫類などの目の中に入っているもので、恐竜なんかにもあったそうです。
写真ではキレイな輪っかに見えますが、実はこれ、魚の鱗のような薄い板状のものがひっつきあって輪っかのようにになっている状態なので、いつもはバラバラになってしまうのですが、今回はしっかりと輪っかの形が残っているものに出会えてうれしくなりました。



▲鳥の強膜輪(きょうまくりん)

【活動予定】

・4月、5月の活動予定日は現在未定ですが、月に2、3回の活動を予定しております。



(19) 緑のくすり箱

【活動報告日の活動会員数(のべ) 27名】

グループ代表アドレス: hashi-midori-k@biwahaku.jp

グループ担当職員: 大槻 達郎

【活動報告】

- 2月12日(土) 参加者: 5名
活動内容: 廃油石鹼作り(実習室2にて開催)

毎年実施している廃油石鹼作りですが、2月は新型コロナウイルスのオミクロン株による感染拡大を受けて、実施するか迷っていましたが、参加できるメンバーだけで活動しました。

今回の廃油石鹼作りは、石鹼生地をミキサーで攪拌する方法だけではなく、ペットボトルを使っての作り方にも挑戦。2種類の作り方を実施しました。ペットボトルで作る廃油石鹼は手軽に攪拌することが出来、後片付けも楽でした。

苛性ソーダに加える水の量が、これまでのレシピでは少なかったため、これまでは型に注ぐ時の石鹼生地が固めに仕上がっていました。水の量を従来の85ccから100ccに増やすことで、石鹼の中に入れた材料(緑茶やヨモギの粉など)が混ぜやすく、作業がしやすくなりました。

石鹼生地にハッカ油をいれることにより、廃油の酸化した臭いを軽減する、パーム油やラードなどは石鹼を硬くし、ココナッツオイルは泡立ちをよくする、といった石鹼の材料の特性を知り、出来上がりが楽しみになりました。

鹼化してきた途中の石鹼生地のPH値をメンバーさんに計ってもらえたことも良かったと思います。

【感想】

- ・なかなか面白い化学実験でした。苛性ソーダの取り扱い、安全に万全を期しておられ、感心しました。
- ・石鹼の塩析精製を試みたいですが、→後日、実施してくださいました。
- ・ミキサーが一瞬動かなくなり焦りました。その後調子よくなり、無事に作成できてよかったです。
- ・楽しく石鹼作りをさせていただきました。皆さんのお話を聞きながら、乾燥ヨモギを濾して、これでもかというぐらい入れてみました。使用感が楽しみです。
- ・ペットボトルで攪拌するやり方は、面白くてよいトレーニングのようでした。今回は陳皮、緑茶を石鹼の色が変わるくらいたっぷりに入れました。使うのが楽しみです。



■3月13日(日) 午前 参加者: 10名

活動内容: 年度末総会

大人のディスカバリールームの展示を見学後、今年度の活動報告と、来年度の活動計画を立てました。

来年度も、博物館実施の「季節の植物でアロマウォーターを作ろう」のイベントを緑のくすり箱のメンバーと一緒に実施させて頂きたいと思います。よろしくお願ひします。(来年度の計画書は、後日メンバーに配布します)

■3月12日(日) 午後 参加者: 12名

活動内容: 黄カラスウリのハンドクリーム作り

琵琶湖博物館の黄カラスウリの実をホワイトリカーにつけて成分を取り出したチンキと、天然二ホンミツバチが作る蜜蝋を使って、黄カラスウリのハンドクリームを作りました。昨年は、黄カラスウリの根から天花粉を作りましたが、今年は、黄カラスウリの実を使ったクラフト作りです。黄カラスウリの実には保湿作用があり、昔から、皮膚のケアに利用されていたそうです。蜜蝋にも、皮膚の保護作用などがあり、ハンドクリームにはお勧めの材料です。

蜜蝋は大きな塊だったので、ハンマーで男性のメンバーが砕いてくれました。作り方としては、蜜蝋と薬局で販売されているオリーブ油を耐熱のビーカーに計り、蜜蝋がしっかり溶けるまで湯煎で加熱します。黄カラスウリのチンキも軽く湯煎して温め、蜜蝋を溶かしたオイルと合わせて、よくかき混ぜます。最後にお好みで精油を入れて香りをつけ、冷ましながら混ぜて、容器に移して完成です。前回の活動で作った廃油石鹼の切り分け作業も横で行いながら、ハンドクリームも作ったので、少しあわただしくなりましたが、わいわい楽しく活動が出来ました。

【感想】

- ・ビーカーに残ったハンドクリームを革製の鞆に付けたら、手も鞆もつややかになり一石二鳥でした。
- ・黄カラスウリチンキ、二ホンミツバチの蜜蝋など、最高級のクリームで、使うのが楽しみです。
- ・自然がしっかり生きている材料を使ったハンドクリームが出来て嬉しいです。
- ・乾燥しがちなこの季節、体中に愛用して乾燥知らずになりたいと思います。
- ・また色々チンキを使って化粧水やクリーム作りに挑戦したいと思いました。
- ・蜜蝋クリームを手塗ったときはベトベト感を感じましたが時間がたつといつまでもすべすべして使い心地がいいです。
- ・早速使ってみました。お肌のスーっとなじむ感じとその後お肌もちもちする感じがとても心地よかったです。



【活動予定】

- ・ 4月（日時は未定） 植物観察会
- ・ 5月18日（水） 季節の植物でアロマウォーターを作ろう
- ・ 6月5日（日） //



(20) 虫架け

【活動報告日の活動会員数(のべ) 0名】

グループ代表アドレス: hashi-mushikake@biwahaku.jp

グループ担当職員: 八尋 克郎

【活動報告】

■滋賀県の新型コロナ警戒レベルが2となっているため活動は行いませんでしたが、引き続き「虫架け通信」を発行し昆虫に関する知識や各メンバーの報告を共有しました。

LBM 虫架けグループ
虫架け通信 No.40
 2022年1月22日発行
 ■1月例会報告
 ■採集
 ■昆虫豆知識
 ■LBM 虫日記
 ■記録・短報
 ■最後に

1月例会報告
 1月8日(土)の午前中、生活工房において虫架け会員の皆さんに標本作りを体験していただきました。内容はしもぎの展開とオサムシの履脚(履足)です。冬の時期に生きたチョウを手に入れたことではあるので、過去に採集した標本を軟化して履脚練習をしていたいただきました。まったくの未経験の方にとって軟化履脚はハードルが高く苦勞されていたが、とにかく上手くなるにはたくさん履脚するしかありません。オサムシについても過去の採集品で滋賀県のヤコンオサムシと埼玉県のオオオサムシの軟化履脚をしていただきました。

船橋、履脚・履脚作業で時間をとられ、虫の名前を特定することはできませんでしたが、こちらは今後の活動行として残しておきます。

実施内容: 昆虫標本作成について学習と体験
 実施地点: 琵琶湖博物館・生活工房
 実施日時: 2022年1月8日 10:00~12:00
 参加者: 11人



連絡
 琵琶湖博物館交流係より今後のしもぎ活動について以下の方針が示されました。
 滋賀県内の新型コロナウイルスの警戒レベルがレベル2に引き上げられました。さらに、ここ数日は急激な新規感染者数の増加が見られるところです。そのことを踏まえ、博物館としては実質的にレベル3相当の対応が必要と判断しているところです。
 よって、しもぎ活動につきましても「新型コロナウイルス感染拡大防止に伴う「しもぎ」の活動基準について」に、レベル3相当の以下の活動方針としますのでご留意願います。
 屋内・・・特定少数の会員のみでの活動は可。飲食は厳禁
 野外・・・特定少数の会員のみでの活動は可。飲食は非対面なら可
 ※ただし、活動の実態にあつてはメンバーや担当指導員とよく話し合ってください。また、活動される場合には感染対策は十分に行ってくださいようお願い致します。
 虫架けの活動もこの方針に従った上で行うこととなりますのでご承知おきください。

昆虫豆知識
 今回はヒラタシデムシの続きの話を紹介しようと思っていましたが準備が間に合わず、冬の休みに中調査したエサキモンキツノカメムシとモンキカメムシを紹介いたします。

エサキモンキツノカメムシ *Sastragala osakii* **モンキツノカメムシ *Sastragala scutellata***
 *どちらも大津市木戸産 (2021年12月12日、武田道彦採集)
 この2種のツノカメムシはよく似ていますが、背面(小橋板)の黄色の模様が微妙に異なっています。モンキは半円形であるのに対して、エサキモンキは上部中央付近に短い切れ込みが入りハート型模様を呈しています。それぞれエサキモンキは「ハートのカメムシ」としてよく知られるようになりました。カメムシ種を採集すると背面のカメムシ臭がすごいです。もちろん臭をつけて手で触らないようにしても、その臭いがついてしばらく取れません。毒ビンの中は殺虫剤を入れていないのですが、たくさん入れると自分が出す臭いのせいカメムシ自身も動けなくなってしまうようです。あの臭い濃度が強弱に異なるのかもカメムシにも影響を及ぼすようですね。
 なお、採集は無償広瀬園(カシノ園など) すぐをたつり、スギやヒノキの樹皮をめぐったりして見ることが出来ます。

LBM 虫日記
 今回は豊洲と冬によく見かける蛾の紹介です。名前はフラウスメ (*Arctia coarctata*) と言います。この蛾が冬の寒さをしのぐためにスズメ(蛾)が羽を立っている様子に似ていることからフラウスメという名がついたと言われています。スズメという名がついていますがスズメが羽でなく、ヤドリ科に属しています。なお羽のときに、口吻がどのくらいの長さであるかを覚えるために伸ばしてみました。幼虫はイラクサ科のイラクサ、カラムシなどを食べます。
 *京津市市野町丸丸島、2021年11月9日、山本由里子採集

記録・短報
 武田: 先日、大槻さんに淡路島のスナゴミシダマシを探って頂きました。ゴミシダマシ科 Tenebrionidae
 オオスナゴミシダマシ *Gnocciphalum pubescens* 20x. 兵庫県淡路市青波、2022年1月6日、大槻道彦採集
 滋賀県からは記録があるのですが、いままで滋賀県内は見つかっていません。
最後に
 少し遅くなりましたが、みなさん期けておめでたうございませう。本年もよろしくお願います。今年7月16日から11月20日まで琵琶湖博物館の企画展「チョウ展-近江から広がるチョウの世界-」が開催される予定です。その中には私たちの虫架けの活動も紹介される予定です。みなさん、お楽しみに。

LBM 虫架けグループ
虫架け通信 No.41
 2022年2月13日発行
 ■連絡
 ■昆虫豆知識
 ■LBM 虫日記
 ■記録・短報
 ■最後に

連絡
 2月1日より琵琶湖博物館アトリウム内で「トンボ100大作戦-滋賀のトンボを救え!-」というイベントを開催しています。主催は生物多様性びわ湖ネットワークで、今月27日までの展示予定です。なお入館は事前予約と常設展示観覧券が必要となります。

昆虫豆知識
 各地域に生息する動物相 (Fauna) を比較して、他の地域と明らかに区別できる特徴ある動物相をもつ区域を動物地理区と言います。現在では、ユーラシア大陸を北緯区、北米を新北區、アフリカをエチオピア区、中南米の熱帯地区、インド・東アジアを東洋區、オーストラリアと太平洋諸島をオーストラリア区とするのが一般的ですが、とくに太平洋に浮かぶ島々をオセアニア区と分けて呼ぶこともあります。さらに近畿道とはほとんど無縁でありながら南近畿も含めたりします。各地域の境界は、海・山脈・大河など動物が移動できない(隔離) 地理的障壁になります。
 日本列島はトカラ列島以南を東洋区とするのが一般的で、屋久島・種子島以北はすべて旧北区とされています。その境界線は東海と呼ばれています。また小笠原諸島はオセアニア区に入ると考えられています。

LBM 虫日記
 ソウムシ科ソウムシ属の中にノミソウムシという小型のソウムシ種が存在します。日本産ノミソウムシ種として50種以上の種が報告されています。体長はほとんどが4mm以下というサイズで、ノミのようにジャンプするところからこの名前がつけられたとも思われます。
 琵琶湖博物館においてよく普通に見られ、特に冬季はケヤキなどの樹皮下で小集団をつくり越冬の姿を確認することができます。色彩もさまざまな変異があり、全体茶色のものから前胸が黒色になるもの、全体が黒色になる個体まで見つかっています。

記録・短報
 武田: 先日、大槻さんより兵庫県淡路島のスナゴミシダマシを頂きました。2頭ともオオスナゴミシダマシでした。滋賀県の琵琶湖周辺でも過去にも見られるヒメカクスナゴミシダマシが他の地域からはなかなか見つかりません。日本海の福井県若狭海津においても、三重県伊勢湾においてもすべてオオスナゴミシダマシでした。文献では連続するような地域も存在するらしいのですが、まだ海岸ではヒメカクスは発見できていません。新しい生息地を調べたいと考えています。
 ゴミシダマシ科
 オオスナゴミシダマシ 20x. 兵庫県淡路市青波、2022年1月6日、大槻道彦採集
最後に
 オミロン科の感染拡大によりふたたび活動が制限されるようになってきました。虫架けの活動再開も先がなかなか見えて来ません。何とか、虫が飛び出してくる春までには感染拡大がおさまってくれていることを願っています。

【活動予定】

新型コロナウイルスの影響で予定が不透明ですが、可能であれば1か月に1回程度の野外調査や室内勉強会を行いたいと考えています。
 昼夜問わず観察・採集などをして、滋賀県内の分布調査をしています。
 ※都合により、新規会員の募集は当面見合わせております。(文責: 梶田)



(21) 森人(もりひと)

【活動報告日の活動会員数(のべ) 0名】

グループ代表アドレス: hashi-morihito@biwahaku.jp

グループ担当職員: 林 竜馬

【活動報告】

■ 2月、3月はコロナ感染症の急拡大により活動を中止しました。会員はそれぞれ身近なところで早春の情景を楽しんでいます。(KTさん) 甲賀市の自宅の近くのユキワリイチゲは2月19日現在、蕾かなと思われる個体が1、2本でした。3月下旬には満開になります。開花は気象条件が微妙な植物ですので、楽しみにしているところです。(Fさん) 3月2日、大津市の公園ではアセビの花が開花し、膨らみ始めた桜の蕾をウソが食べていました。



(Yさん)3月3日、近くの川にはコガモ・マガモ・キンクロハジロ・オオバン(子供が20羽近く生まれています)が例年になく多くウオーキング途中、楽しんでます。

(Mさん)3月3日、冬は鳥さん観察メインになりますがぼちぼちいろんな花が咲く季節。マスクで花粉対策しながら一人観察会楽しみたいと思います。早くコロナが落ち着いて、皆様と一緒に活動できますように。(写真左)コセリバオウレン(2月9日、栗東市)、(写真右)ユキワリイチゲ(2月28日、甲賀市)ポツポツとしか咲いていませんでした。早いのかな？



2月21日の琵琶博周辺にて。湖のはるか彼方にポツと白くミコアイサのカップルを発見(写真左)。さらにその横でホオジロガモ(写真右)の群れも発見。なんか上に顔を突き上げるような変な動きをしているなと思って、後で調べたら、求愛ダンスだったようです。



(Tさん)3月5日、米原の自生地ではセツブンソウはまだ雪の中で昨年の2月中旬に満開とは大違いです。

(Kさん)3月5日、栗東観察の森に今日行ってみました。コセリバオウレン、セツブンソウ、キクザキイチゲ、ユキワリイチゲなどが見られました。みんなキンポウゲ科の花なのですね。あまりにも小さくて見過ごしてしまいそうな花たちでした。

皆さん情報ありがとうございました。

【今後の予定】

- 4月以降はコロナ感染症の状況により開催を判断します。



(22) 琵琶湖梁山泊

【活動報告日の活動会員数(のべ) 0 名】

グループ代表アドレス: hashi-ryozanpaku@biwahaku.jp

グループ担当職員: 中井 克樹

【活動報告】

この2ヶ月は、学校では3学期の後半にあたり、また年度末でした。学校現場では、最高学年のメンバーの卒業などで慌ただしいうえに、新型コロナウイルス感染症の第4波の影響もあり、活発な活動は難しい時期だったと思われます。コロナ感染の収束が待たれるところですが、新年度には新しいメンバーも加入して、活動がより広がり、深まることを期待しています。



SALON DE 湖流
Lake Biwa Museum

(23) サロン de 湖流

【活動報告日の活動会員数(のべ) - 名】

グループ代表アドレス: hashi-salondekoryu@biwahaku.jp

グループ担当職員: 戸田 孝

【活動報告】

■ 1月4日(火)~3月8日(日)に関連するギャラリー展示があり、その運営に担当学芸員がかかりきりになっていました。展示中の体験コーナーでの一般来館者対象の実演に参集することを計画しましたが、新型コロナウイルスの再拡大の問題もあり、実現しませんでした。なお、展示の様子は随時メーリングリストでメンバーにお知らせし、2月26日(土)には2名に展示観覧に来ていただきました。

【活動予定】

新型コロナウイルスの影響もあって活動停止状態になっており、担当学芸員もこの3月限りで定年退職することになっているので、今後の活動について改めて協議を進める予定です。



(24) 水と暮らし研究会

【活動報告日の活動会員数(のべ) 12 名】

グループ代表アドレス: hashi-mizu-kurashi@biwahaku.jp

グループ担当職員: 楊 平

【活動報告】

■ 1月27日(木) 10:00-11:00 晴 参加者 6名

1, 活動先: 滋賀県立美術館

2 調査目的:

滋賀県立美術館で開催中の「琵琶湖源流の美と暮らし」写真展を見学し琵琶湖源流部の高時川流域に生活した村民の暮らしの記録から、周辺の自然の山と川の恵みを生かし、村民同士が助け合って生活し、神仏への祈りが暮らしに根付いていた証を、写真を通じて学ぶのが目的。

3 調査要旨

この写真展は、長浜市役所の元職員、吉田一郎氏が50年間記録した高時川流域で自然に寄り添った日々の暮らしと集団離村時の記録写真展である。展示写真および展示説明資料から感じられたことも含め、下記に列挙した。

まず、舞台は、湖北高取川源流域の奥丹生谷に点在していた集落の日常生活の記録写真である。

〈概略〉

- 1) 奥丹生谷の主なる生業は炭焼きであったが、プロパンガス、石油燃料の普及で離村を余儀なくされ、奥川並(昭和44年) 針川(昭和45年)、尾羽梨(昭和46年)の3集落が、また、琵琶湖総合開発事業での丹生ダム計画の具体化で、平成7年に半明、田戸、小原、鷺見の4集落が相次いで離村した。その計、7集落の、生活の証の記録写真である。
- 2) 各集落とも、川沿いの狭い山裾に住居を構え、焼き畑を行わずかな稲作とソバなどの穀物を耕作し、炭焼きを唯一の収入源として生活していた。また、奥丹生谷は黒木という良質の炭を産出していた。

〈時代背景〉

木炭は、高度成長下、各家からかまどが消え、プロパンガス、都市ガス等への転換による燃料革命が起きた昭和 39 年(1964 年)の東京五輪を境に、僅か 2-3 年で炭の販売は皆無に陥ることになり、奥川並、針川、尾羽梨の3集落が離村せざるを得なくなった。また、淀川水系の水資源開発基本計画にあたり、琵琶湖総合開発特別措置法が国会で承認され、奥丹生谷の高時川にもダム建設計画により半明、田戸、小原、鷺見の4集落が離村した。(但し、ダム計画は途中、事業計画は中止になった。)

〈各集落の暮らし〉

7集落に共通しているのは、「自然への畏怖」への想いである。山野の実りを神に感謝し、生かしてもらっていること自体が自然への祈りであり、氏神、山の神への畏敬への感謝である。

また、生命の根源である水に対し、高時川の水利用、ショウズと呼ばれる年中枯れることのない清水の湧水利用での生活、集落住民の互助による生活対応と、集落住民が一つとなって生活していた様子が伺える。

〈想いとして〉

前述通り、各写真から滲み出ているのは、「自然に対する感謝・山野の実りへの感謝、感謝への表れとしての神への祈り、神木、氏神、神石など自然への畏怖」「水への感謝・生活用水、農業用水」「集落住民の互助組織・子孫への繁栄祈願」など、自然に生かされている集落、自然と共に生きている集落の感を強く感じた次第である。

* 写真集、および、より詳しいことをお知りになりたい方は、湖北アーカイブ研究所にお問い合わせください。

■ 3月3日(木) 9:30-13:00 晴 参加者 6名

1, 活動先: 東近江市新宮町・福堂町、野洲市歴史民俗博物館

2 調査目的:

東近江市能登川地区で水路利用状況が現在でもよくわかる集落の新宮町、福堂町を訪問し集落内の水路利用状況を確認する。同地区訪問前に、野洲市歴史民俗資料館に立ち寄り「祇王に関する展示物」見学と、館内境内にある「山の神」の石塔、勧進縄も見学した。

3, 調査要旨

1) 東近江市新宮町集落の水路

集落の中央に東から西(琵琶湖岸)方向に比較的大きな水路が一直線に流れこの水路へは、GL-30 cm程度の場所から塩ビパイプを通じ水路の自噴水が常に水路に放流されている。近隣住民は、生活雑水として利用している。水路際には、昔、カワドとして利用されていた痕跡もあったが、今はその利用はない。水路際のパイプから自噴水が全て放流されている訳ではないのが謎である。パイプの根つまりか、水系が一部途絶えたのか？

この水系は、500mほど北側に愛知川の堤防があり、特有の天井川であり、集落地下水系としての愛知川伏流水が蓄えられ、大きな圧力を受け自噴しているものと思われる。



■ 新宮町集落中央の水路(下流側)



■ 新宮町集落中央の水路(上流側)



■ 新宮町集落外周側水路

2) 東近江市福堂町集落の水路

福堂町集落も新宮町集落の近隣であるが、少し変わった水路利用跡もあった。同集落は野島崎神社が鎮座し、創基は不詳とされるが天文年間(1532~1555年、室町時代)と伝わり、大国主命・応神天皇・菅原道真公を奉る。神社名が表す通り、昔はこの付近まで琵琶湖が入り込んで岬の突端であったかもしれない。集落内水路は、幅も水量も豊富で舟の行き来もあったものと推測される。また、両岸に水路に降りる階段が設置された跡があり、カワド或いは舟への積み荷のための場所かもしれない。



■野島崎神社本殿



■福堂町集落水路(階段跡)



■福堂町集落水路(巾広し)

3) 野洲市歴史民俗博物館見学

今回 近江国野洲の祇王・頼朝・宗盛伝説 ―伝承と地域史―の展示が開催されており、一連の祇王井川調査の一環として訪問した。

- ・祇王井川は江部荘(永原・中北・北の3村)の水不足対策として造られた。
- ・平安時代は全国的に干ばつ被害が多かった時代でもあった。
- ・祇王井川の堀削工事には清盛、宗盛ないしは国司レベルの力が必要だったと考えられる。
- ・祇王、妓女の物語は鎌倉時代になってからの平家物語で伝えられている話で、物事を伝承するための手法として利用されたのか、実話か否かは不明である。
- ・井(ゆ)は用水を意味し、井のぼり行事、虫干し、祇王法要等が今も続いている。
- ・宗盛は壇ノ浦の戦いのあと 生き残って一旦鎌倉で源頼朝の下で逗子付近でしばらく軟禁された。のちに京都へ送還途中に、義経の命を受けた橋公長に篠原宿で斬首された。
- ・野々宮遺跡等の近隣遺跡の発掘で平安から鎌倉時代の農民が使ったと推定される食器、壺等が多く出土しており、それなりの集落(一部は竪穴式住居だったと推定される)が既に存在したと考えられる。

4) 山の神 (野洲市辻町) の勧請縄調査

近くの三上神社道路拡張工事で歴史民俗博物館の敷地内に移されたものである。

男女の股木(中には結構写実的な細工モノもある)、生きたドジョウ(オス・メ)を供えて、長持と呼ばれる勧請縄を吊るす神事で、毎年左義長の日の午前中に子孫繁栄と五穀豊穡を祈願して執り行われる。その際「三上神社の神 子孫繁栄 五穀豊穡 山の神のペンペゴォー」と大きな声で叫ぶ。



■山の神の石碑



■勧進縄

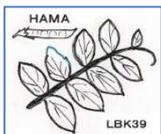


■男女の股木を供える

【活動予定】

・4月7日(木) 計画中

執筆者 小篠



(25) 海浜植物守りたい

【活動報告日の活動会員数(のべ) 13名】

グループ代表アドレス: hashi-kaihin@biwahaku.jp

グループ担当職員: 大槻 達郎

【活動報告】

■令和4年3月4(金)9時30分～11時30分 天候:晴れ 気温:9℃ 参加者:6名

観察状況 * 今年最初の作業日。琵琶湖の水は澄み波もなく穏やか。対岸の山にはうっすらと霞がかかり積雪が見える。植物も春を待ち耐えている。心地良い日差しの久しぶりの作業日。

活動内容

- 1. ミーティング
- 2. 広場側の保護区域内ロープ際に深さ 45 cm、延長 10m の波板設置。
次回は残り 10m を敷設予定。
- 3. 浜及び保護区域内のチガヤとコマツヨイグサを除草。



今日の琵琶湖 水位+3cm

海浜植物

- ① ハマエンドウ: 全体的に枯れて松の枯れ葉が目立つ。
- ② ハマゴウ: 全体的に枯れている。種は地面に落ちている。
- ③ ハマヒルガオ: 砂がかぶさり見えない。
- ④ 15 cm~20 cm ぐらいの幼松が保護区域の空間に植えられていた。

①
ハマエンドウ



②
ハマゴウ



作業の様子



作業前



作業後



ミーティング



穴掘り開始



ひたすら掘る



45 cmの深さに掘れた



波板設置



土を元に戻し設置完了



松の木が植えられている

次回の作業日 3月18日(金) (要相談)

3. 生活実験工房からのお知らせ

各地からの桜の便りがにぎやかになるころ、工房でも田んぼの準備が始まります。2022年度の田んぼ体験イベントは、下記日程で行うことになりましたので、お知らせします。時間を見つけて、ぜひ活動へご参加くださいませ。

昨年度は田植え、稲刈り、わら細工が新型コロナウイルス感染症対策のため、残念ながら中止となりました。今年はすべての行事が出来ることを願いつつ、社会情勢やニーズに即した、よりよきイベントになるよう努力していこうと考えています。



工房の畑も「ちこあそ」さんのお陰で春らしくなって参りました。

【活動予定】

開催時間：10:30～12:30(受付10:00～) 場所：生活実験工房
田植え、稲刈りについては、各自、長靴、着替え等をご用意ください。

- 5月 8日(日) 田植え
- 7月 24日(日) 昆虫採集
- 9月 11日(日) 稲刈り、はさ掛け(早稲品種)
- 10月 2日(日) 稲刈り、はさ掛け(晩稲品種)
- 11月 20日(日) 土の中の小さな生き物を探そう
- 12月 18日(日) しめ縄づくり
- 2月 5日(日) わら細工

担当:交流係



ギャラリー展示「森へ行こう、森と生きよう。」も開催中です。

4. その他の事項

(1)はしかけグループの活動に初めて参加する場合

ニューズレター発行後、活動日・活動場所が変更になる場合があります。グループの活動に初めて参加する時は、事前に各はしかけグループの担当者に確認をお願いします。メールの場合は、グループ代表アドレス(各グループの報告欄に掲載)にご連絡ください。

(2)名札(会員証)の写真について

名札(会員証)の写真を更新されたい方は、はしかけ制度担当者 hashi-adm@biwahaku.jp まで送って下さい。ただし、必ず本人確認ができるものに限りです。

(3)はしかけ会員証の携帯のお願い

はしかけ活動で来館する場合は、会員証を必ず持参してください。会員証を携帯せずに活動することは、原則的にできません。

(4)はしかけ活動中に事故が起こったら

はしかけ会員は、ボランティア保険に加入する必要があります。加入時に、ボランティア保険加入カードが各自に配布されますので、活動中に事故などが発生した場合には、加入者カードに書いてある連絡先(社会福祉法人 滋賀県社会福祉協議会 TEL: 077-567-3920 FAX: 077-567-3923)へ、速やかに連絡してください(各人で連絡)。

なお、手続きには、グループ担当者(学芸員)の活動証明が必要ですから連絡してください。

詳しくは、最新年度の「ボランティア保険」パンフレットをご覧ください。「ボランティア保険」のパンフレットは、はしかけ事務局(博物館事務学芸室)にも置いています。